



一般社団法人ラシク 045

2025(令和7)年度 事業計画書(案)



事業計画概要

本法人も 5 年目、5 周年を迎え、昨年度、横浜市に議員条例で制定された「こども基本条例」への政策プロジェクトチームとの意見交換から 1 年が経ち、第 3 期横浜市子ども・子育て支援事業計画「こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン」の施行が 2029 年に向けて 5 年間推進していく年度にかかっている。

この 5 年間、常に法人理念でもある「着火する、ラシク生きていく希望、自分を知る・気づく、感度をひきあげ、変容していく」の実現のために、課題解決型に終始せず、目的目標をあえて空洞にしながらオモシロ、おかしく集っていくネットワークという目指しは普遍的なものであり、対外的にも浸透しつつある。団体専用の 4 つ折りパンフレットが完成したところで、広報普及に役立てることができた。

それぞれがそれぞれの区(場)でそれぞれに活動されているメンバーであり、かつメンバーの世代も時に学生も含めた 10 歳代～70 歳代まですべての年代層が集い、それぞれのフィールドを持ち合い高め合える関係性を維持し、5 年目の節目に来ていると感じている。時に柔軟に時に強固に常にその活動のカタチを可変しながら、緩やかにつながるしなやかなネットワークを目指していきたい。

こども、子育てのあり方が大きく急ピッチで変化していく中で、多様な背景の市民で形成されている本ネットワークにおいては、市民および市民活動、地域に生活する視点を持ってその変化の様子を見つめ、「こうあって欲しい」という率直な願いを常に発信し、他社へ届けるための「ルート」となる機能の役割も果たしていきたい。

ドーナツ型で 4 象限をぐるぐる回しながら皆で種まき、皆で収穫した結果の横浜らしさを形成することが我々自身の手でできるのだという実感をもってメンバーが繋がりが合っていけることを 5 年目を迎える本年度の計画として改めて据えていきたい。

事業の説明 ～ラシク 4 象限を事業の柱に～

1. 人生 100 年時代 変わる未来のかたち

これまで 2 ケ年に渡り実施してきたこども子育て支援事業計画の縦と横のつながりが活かされる計画実行年にあたり、その動きを追いつつ、関連事業含めて今後の横浜市の未来にどう影響を与えていくか？またメンバーそれぞれの個人および団体の関心と活動がどうコミットしていけるか？を検証していく。

今夏において参院選と市長選があることからその経過と行く末を市民として見つめ、とくに障害者とその家族および 18 歳選挙権が行使されてからの市域での動きを追いつ、若者の未来への期待や展望などに触れる機会を設ける。まずはその実態把握から始めていく。

そして横浜の未来を牽引する首長選挙についてラシクとして立候補者のまなざしを理解し選挙という行為に親和性をもって 1 市民として 1 票を投じていける環境づくりに努める。

1) 予算(ヨサン)のミカタ

ラシク監事(元横浜市職員)からの令和 7 年度のこども子育て関連予算の全体像の把握と予算の見方、捉え方のレクチャーをメンバー間で学ぶ 5 月 16 日(金)

2) ラシク横浜みらいサロン

第 1 回 選挙を学ぼう① 6 月 20 日(金)

第2回 横浜市こども青少年局 台所事情&オンラインサロン 6月27日(金)
第3回 選挙を学ぼう② 7月18日(金)

3) ヨコハマ市民版 地域フォーラムの開催 当事者そして当事者支援をしている人の声を聴こう！
年3回を予定

(公財)アイネット地域振興財団助成による
市域方面別での地域フォーラムの開催(下記は案)

- ①ラシク横浜未来サロンの振り返り ～声なき声を聴くということ～
- ②教育と福祉との連携のなかで ～こどもそばによりそう人たち～
- ③人生100年時代×横浜の未来を見据えてデータで予測できること

4) 障がい福祉 横浜市福祉のまちづくり条例を紐解く

委員会に参画していることから条例と暮らしの中への認知度、活用度、浸透度を市民目線で
推し量り、計画の推移を共有していく

2. つながりの再編・再生に向けて

3年目になるジェンダーすごろくでの活動をはじめ、種まきをしてきた多世代、多様な主体が参加しながらオモシロ、オカシク、ユニークな対話の実践を通して、さらにお互いの価値観、知らなかったことを知り、自身が豊かになり、未来を描くヒントやエッセンスが得られる「場」をつくることを目指す。

- 1) 世代を超えた新しい関係づくりを再編、再生する取り組みを行う。
- 2) 場の作り方そのものを市域の様々な場で広げ、誰にでもできるようなツールを発信する。
- 3) 全世代型ジェンダー意識から、多様性のオモシロさを知る

第5次横浜市男女共同参画行動計画 ラシク版ジェンダーすごろく 広めて深めて多様な
主体で気軽に気楽に考えられる機会と場をつくる。

4) 新高島地区旧アンパンマンミュージアム跡地の活用に向けた取り組みを行う

新たな交流・発信拠点の形成段階においてみなとみらい21地区にクリエイティブな多様な人材交流
を目指しイノベティブな活動を生み出す動きがスタートしている。この取り組みにおいて、市民とし
ての地域や日常生活に根ざした提案を行う。

3. 心と体が動く体感・体験に向けて

ラシク5年目となり、2年前からスタートした市内、先進的に活動している活動場所、メンバーが思いを持
って実践している現場などに足を運んでいく。座学でなく実際に動いて次なるアウトプットを生み出す刺
激になる心と体にピンとくる体感・体験的な取り組みを行う。

また 5周年を迎える節目でもあることから、まずはメンバー間が楽しめるそして関心が持てて笑い合
いながら臨める周年活動を企画する。あんぱんまんミュージアム跡地の構想を第3セクターと進めてきてい
る中で、開催場所として企画内容に賛同を得ながら無理なく開催できる方向を模索する。

1) DO！体感 会員間活動現場視察会の実施

- ①中区 縁乃庭～さくらリビング 青少年の居場所ツアー 4月24日開催
- ②戸塚区 市民協働事例の発祥の地「舞岡公園」～戸塚区民活動支援センター&子育て支援拠点
とっとの芽～こより堂カフェ善了寺 訪問 11月予定

2) 設立5年目 周年イベントの開催 前掲2.つながりの再編・再生の4)との連携によって開催予定

3) プロジェクト「この指と～まれ！」企画 内側を向く会員同士の自主的な対話タイム

- YONAYONA(適宜)
- グラレコ学びたいシリーズ(適宜)

4. その人のヒストリーからの収穫

活動する一人ひとりの背景、歴史に触れて、自分を振り返り、皆が時に「ほう！」と感嘆しそれぞれの人生から学べることを大事に、自分を振り返り、次の収穫につなげるような毎月の定例会でのセッションを進行当番を決めて活動する。

定例会自体は8月を抜かして原則毎月1回、計11回を開催。リアルとオンラインを交え開催する。

プロジェクトまでいなくても「その日その人が話したいこと！」「皆に聞いてみたいこと」「お願いしたいこと」など気軽に相談、依頼、共有、共感してもらいたい内容をトピックとして語り込んでいく場を作る。

5. その他

1) ラシクメンバー派遣したいのだけど・・・どうお！？計画

多様なスキルメンバーが集まる当法人の一人一人のバックボーンや活動実践をもとに、市内での市民および活動団体の応援をしたい！ということで HP 上でメンバーを派遣できる告知をしていきたい
例：塚原さん(グラレコ)、稲田さん(権利とは？)、佐藤さん(インクルーシブとは)、植木さん(W ケア) 等

2) 5周年を機に HP の改訂等を進める